

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成26年6月

福島工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	7
	基準3 教員及び教育支援者等	12
	基準4 学生の受入	19
	基準5 教育内容及び方法	25
	基準6 教育の成果	38
	基準7 学生支援等	42
	基準8 施設・設備	50
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	53
	基準10 財務	59
	基準11 管理運営	63

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名 福島工業高等専門学校

(2) 所在地 福島県いわき市

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気工学科，物質工学科，
建設環境工学科，コミュニケーション情報学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻，

物質・環境システム工学専攻

ビジネスコミュニケーション学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成26年5月1日現在）

学生数 単位：人

準学士課程	1	2	3	4	5	合計
機械工学科	42	42	41	38	40	203
電気工学科	44	39	43	39	48	213
物質工学科	43	42	41	38	46	210
建設環境工学科	45	38	44	41	39	207
コミュニケーション情報学科	42	41	46	40	45	214
計	216	202	215	196	218	1,047

専攻科課程	1	2	合計
機械・電気システム工学専攻	12	12	24
物質・環境システム工学専攻	14	12	26
ビジネスコミュニケーション学専攻	2	7	9
計	28	31	59

教員数 単位：人

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
一般教科	9	16	0	0	25
機械工学科	3	6	0	1	10
電気工学科	2	6	0	1	9
物質工学科	5	4	1	2	12
建設環境工学科	4	4	0	1	9
コミュニケーション情報学科	3	3	1	2	9
計	26	39	2	7	75

2 特徴

福島工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、昭和36年6月の高専制度創設に伴い、高専の第一期校として昭和37年4月に当初「平工業高等専門学校」の校名で設立された。その後、昭和41年に当時の平市を含む近隣市町村の合併による新たな「いわき市」の誕生に伴い、昭和42年6月にその校名が「福島工業高等専門学校」に改称され、現在に至っている。本校は、これまで約50年間にわたり、福島県内における唯一の国立の工学系高等教育機関として実践的な技術者の育成に貢献し、平成26年4月現在で7,383名の卒業生（準学士課程）及び214名の修了生（専攻科課程）を社会に送り出してきた。

本校は、昭和37年の設立当初は機械工学科，電気工学科及び工業化学科の3学科であったが、昭和41年4月土木技術者の早期育成を目的として土木工学科が新設され、さらに平成6年4月情報技術を活用したコミュニケーション科学と技術に関する教育と研究を行うことを目的としてコミュニケーション情報学科が設置され、5学科体制となった。また、平成7年から8年にかけては、科学技術の進展と時代の要請に合わせ、土木工学科が建設環境工学科に、また工業化学科が物質工学科へとそれぞれ改組された。

本校はその後平成15年度まで5学科体制であったが、平成16年4月、「機械・電気システム工学専攻」，「物質・環境システム工学専攻」，「ビジネスコミュニケーション学専攻」の3専攻から成る専攻科が設置された。それ以後工学系4学科とビジネス系1学科から成る準学士課程と上記3専攻から成る専攻科課程を併せ持つ5学科1専攻科体制の高等教育機関として現在に至っている。

本校はこれまで「広く豊かな教養と人間力の育成」「科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成」「固有の才能の展開と国際的視野及びコミュニケーション能力の育成」を教育理念とし、工学系4学科では「十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に対応できる技術者の育成」，またコミュニケーション情報学科では「情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人の育成」に当たってきた。また本校の特徴である工学系及びビジネス系の学科，専攻を併せ持つ利点を生かし、工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により「ビジネスがわかる技術者，工学がわかるビジネスマン」の育成も教育目標の一つとして、教育研究を行ってきている。

平成23年3月、福島県は東日本大震災で地震・大津波・原発事故放射能汚染等の甚大なる被害を受けた。福島県は、再生可能エネルギー利用技術の日本の中心となるべく復興対策を練っている。本校は文部科学省の平成23年度「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択されたことを受け、平成25年4月から、専攻科に再生可能エネルギー，原子力安全，減災工学の3分野において地域復興に必要な教育を実施するため、学生定員5名及び任期付き教員5名を増員して「復興人材育成特別コース」を開設している。以上のように、本校は、当初からの基本的な教育目標を維持しつつ、かつ社会的状況にも考慮しながら、教育研究のさらなる充実と高度化に努めている。

II 目的

1. 福島工業高等専門学校の目的と使命

福島工業高等専門学校（以下「本校」）は「教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的とし、また、本校専攻科は「高等専門学校における5年間一貫教育課程のうえに、より高度な専門的学術を教授研究することにより、豊かな教養と人格を備え、広く産業の発展に寄与する人材を育成すること」を目的と定めている。本校ではその目的を達成するため、以下のような教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を定め、その実現に努力している。

2. 教育理念

本校では、独立行政法人国立高等専門学校機構法第3条に定められた高専機構の目的に沿い、教育理念として次の3項目を掲げている。

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

3. 学習・教育目標

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

4. 養成する人材像

本校の準学士課程は工学系4学科及びビジネス系1学科、専攻科課程は工学系2専攻及びビジネス系1専攻から構成されており、「工学ービジネス」の融合したシナジー教育が特色である。

以下に、本校で養成する人材像を列記する。

A. 工学系の学科と専攻

- 1) 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に対応できる技術者
- 2) モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- 3) 外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者

B. ビジネス系の学科と専攻

- 1) 管理能力を持ったビジネス系職業人
- 2) 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- 3) 情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

準学士課程の各学科で養成する人材像

- 機械工学科 機械工業のみならず一般産業を含めた広い分野において科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成
- 電気工学科 電気・電子・情報技術を中心として産業界の分野で活躍できる技術者の育成
- 物質工学科 時代のニーズに即した種々の機能性材料を開発、生産する化学、医薬品、食品工業をはじめ、

機械，電気，電子工業などの素材技術者の育成

○建設環境工学科 建設技術の基礎の上に，自然環境に配慮しながら持続可能な開発や社会基盤施設の建設に対応できるシビルエンジニアの育成

○コミュニケーション情報学科 「ビジネス」，「英語」，「情報」に重点を置いたコミュニケーション科学に関する教育研究により，ビジネス社会の現場で活躍できる人材の育成

専攻科課程の各専攻で養成する人材像

○機械・電気システム工学専攻

準学士課程の機械工学科，電気工学科のそれぞれの専門的な基礎の上に，機械設計関連，システム制御関連，電子物性関連および情報関連分野に関する高度で応用性の高い専門科目を履修する。さらに技術経営論，ベンチャービジネス論などのビジネス系科目を履修することにより，境界領域分野や高度情報化社会における先端技術の開発や技術移転にも対応できる「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。

○物質・環境システム工学専攻

準学士課程の物質工学科，建設環境工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ，その応用性や専門性を深めさせ，さらに，高度な環境工学関連の科目を履修する。さらに，ビジネス系科目を履修することにより，自己の専門領域を超え，環境への影響に配慮しつつ先端技術に柔軟に対応できるスキルを身につけた「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。

○ビジネスコミュニケーション学専攻

準学士課程のコミュニケーション情報学科の英語，情報，コミュニケーション科学を中心とした社会科学の基礎の上に，経営管理系科目，生産管理系科目，ベンチャー・地域計画学の専門科目を履修する。さらに工学系科目を履修することにより，工学的知識を獲得し利用できるスキル，国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力，モノづくりの生産ラインに係わるマーケットリサーチ，企画，開発，生産，流通管理，販売の実務能力を併せ持ち，地域に根ざしたグローバルな視点を持つ「実践的ビジネスプロフェッショナル」の養成をめざす。

5. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

A. 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力（準学士課程）

- 1) 豊かな教養と周囲に配慮できる人間性
- 2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
- 3) 自ら工夫し，広い視野から新しい発想が出来る能力
- 4) 自己を啓発し，問題を分析して解決する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力の実践力
- 6) 基礎的なコミュニケーション能力と情報技術を活用したプレゼンテーション能力

B. 修了時に身に付けるべき学力や資質・能力（専攻科課程）

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に，融合・複合的な専門知識を修得し，知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により，複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し，問題解決のみならず課題探究する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した，国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力